

グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第4期(決算日2025年4月21日)

作成対象期間(2024年4月23日～2025年4月21日)

| 第4期末(2025年4月21日) | |
|------------------|------------|
| 基準価額 | 5,936円 |
| 純資産総額 | 241,344百万円 |
| 第4期 | |
| 騰落率 | △ 2.2% |
| 分配金(税込み)合計 | 0円 |

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要な事項にかかる情報を記載したものです。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド」は、2025年4月21日に第4期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されており、持続可能な未来に向けた課題の解決に関連し、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<445021>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

www.nikkoam.com/

2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社は「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に社名変更します。社名変更後URL: www.amova-am.com

当運用報告書に関するお問い合わせ先

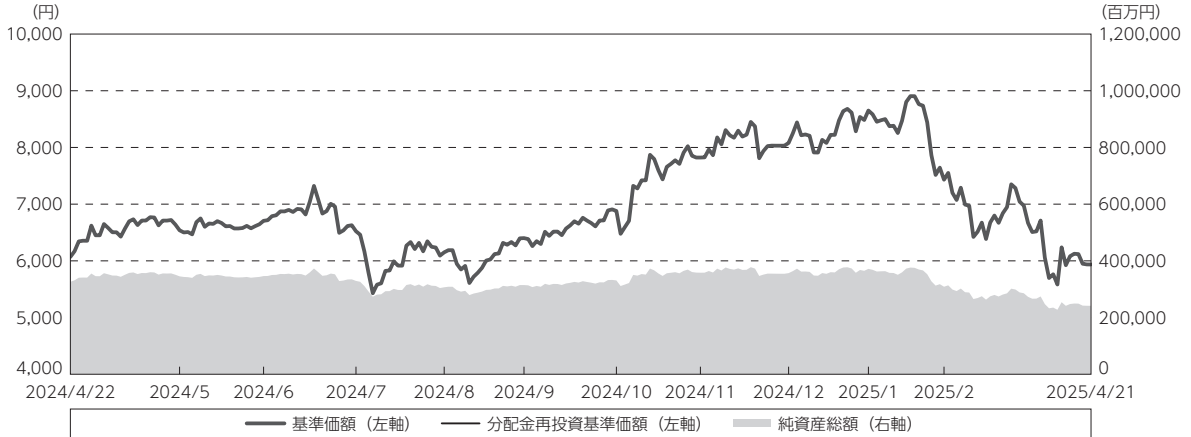
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2024年4月23日～2025年4月21日)



期首：6,070円

期末：5,936円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 2.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2024年4月22日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されており、持続可能な未来に向けた課題の解決に関連し、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式(預託証券を含みます。)を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・人工知能(AI)や半導体への期待を背景に、米国を中心に先進国の株式市場が好調に推移したこと。
- ・暗号資産市場の上昇が関連企業の追い風となったこと。
- ・市場のボラティリティ(価格変動性)が高まった局面で、保有するディフェンシブ(景気動向に左右されにくい)株が下支えしたこと。

<値下がり要因>

- ・米国政権による関税政策の発表を受けて、株式市場が不安定になったこと。
- ・一部の保有銘柄で、企業収益が市場予想を下回るなど苦戦したこと。
- ・ヘルスケア・セクターなど金利感応度の高い保有銘柄にとって市場環境が逆風となったこと。

1万口当たりの費用明細

(2024年4月23日～2025年4月21日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|----------------------|---------|------------|--|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 円 68 | % 0.960 | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 |
| (投 信 会 社) | (15) | (0.219) | 委託した資金の運用の対価 |
| (販 売 会 社) | (50) | (0.713) | 運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価 |
| (受 託 会 社) | (2) | (0.027) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) そ の 他 費 用 | 0 | 0.006 | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| (監 査 費 用) | (0) | (0.004) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (印 刷 費 用 等) | (0) | (0.001) | 印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用、運用において利用する指数の標章使用料など |
| 合 計 | 68 | 0.966 | |
| 期中の平均基準価額は、7,039円です。 | | | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

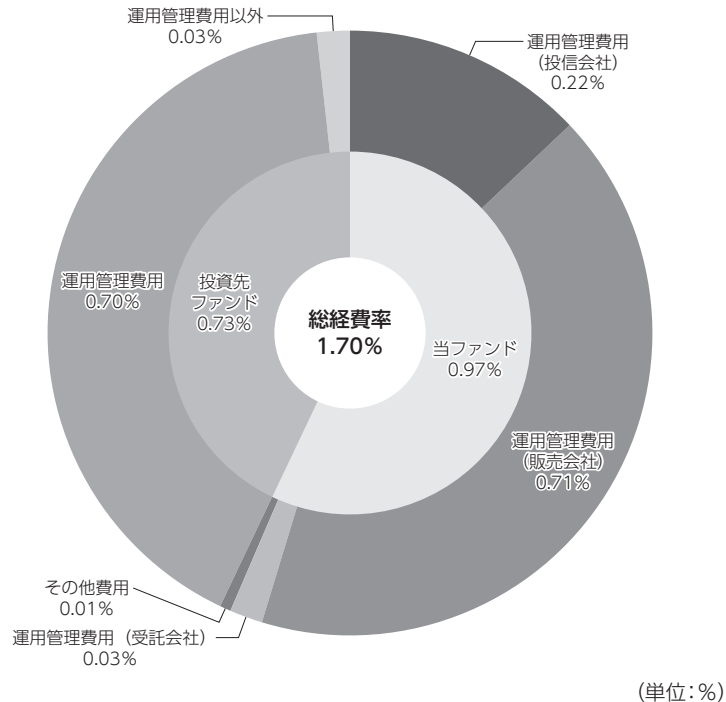
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.70%です。



| | |
|----------------------|------|
| 総経費率(①+②+③) | 1.70 |
| ①当ファンドの費用の比率 | 0.97 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.70 |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.03 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2020年4月20日～2025年4月21日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2021年4月26日です。

| | 2021年4月26日 設定日 | 2022年4月20日 決算日 | 2023年4月20日 決算日 | 2024年4月22日 決算日 | 2025年4月21日 決算日 |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 10,000 | 6,894 | 4,996 | 6,070 | 5,936 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | △ 31.1 | △ 27.5 | 21.5 | △ 2.2 |
| 純資産総額 (百万円) | 286,056 | 384,633 | 290,061 | 326,140 | 241,344 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年4月20日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2024年4月23日～2025年4月21日)

(株式市況)

期間中の世界の株式市場は、ボラティリティが高まりました。2024年8月に、米国の経済指標が市場予想を下回ったことや円が急上昇したことなどを受けて市場は乱高下し、高利回り投資に対する売り圧力が強まると下落しました。しかし、米国連邦準備制度理事会（F R B）が9月に利下げを実施して他の主要中央銀行に続く、株式市場はほぼ全域で上昇しました。その後も、ボラティリティが高まったものの、米国の大統領選挙を受けて規制緩和や税負担の軽減が予想されるなか、市場全体にとって好ましい環境が期待されたことから上昇しました。しかし2025年に入ると、米国政権による追加関税の発表が市場全体の売りにつながり、中国の報復関税実施によって状況はさらに悪化しました。こうした困難な状況を受けて、期間中はディフェンシブセクターが相対的に善戦しました。

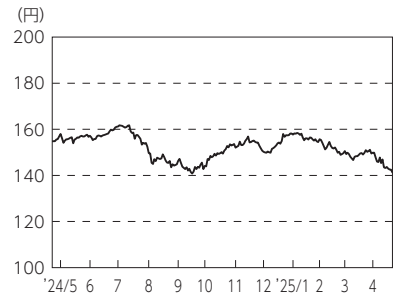
(債券市況)

国内債券市場では、期間の初めから2024年7月上旬にかけては、円安／アメリカドル高が進行するなか日銀による国債購入の減額や追加利上げが意識されたことや、日銀が発表した全国企業短期経済観測調査（短観）で大企業製造業の景況感が改善したことなどから、国債利回りは総じて上昇（債券価格は下落）しました。7月中旬から9月下旬にかけては、日銀が利上げを実施したことが国債利回りの上昇要因となったものの、F R Bが米国連邦公開市場委員会（F O M C）で大幅な利下げに踏み切ったことや、日銀総裁の記者会見を受けて早期の追加利上げ観測が後退したことなどから、国債利回りは総じて低下（債券価格は上昇）しました。10月上旬から期間末にかけては、米国の関税政策などの影響による世界景気減速への懸念が強まったことや、米国政権が輸入自動車への追加関税を発表し貿易摩擦が警戒され国内株式市場が下落したことが国債利回りの低下要因となったものの、F R Bが2025年において利下げを慎重に進める姿勢を示したことや、日銀が追加利上げを決定するとともに物価の見通しを上方修正したこと、複数の日銀審議委員の発言などを背景に日銀による利上げの継続が意識されたことなどから、国債利回りは総じて上昇しました。

(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



当ファンドのポートフォリオ

(2024年4月23日～2025年4月21日)

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「日興AMARKポジティブ・チェンジ・イノベーション・ファンド クラスP」円建投資証券を高位に組み入れ、「日本短期債券マスターファンド(適格機関投資家向け)」受益証券への投資を抑制しました。

(日興AMARKポジティブ・チェンジ・イノベーション・ファンド クラスP)

期間中の投資行動としては、がん治療へのアプローチ方法に革命をもたらしているテンパスA1(医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス)を新規に組み入れました。A1の力を活かした最先端のデータプラットフォームによって大量の患者データを分析し、それを用いて個々の患者の治療効果を予測することができます。この強力なツールを医師に提供することにより、より患者個人に合わせた治療選択肢を実現し、がん患者の治療成果の向上に貢献しています。

また、がんのリキッドバイオプシー検査に特化した精密診断を提供するガーダントヘルス(ヘルスケア機器・サービス)を新規に組み入れました。主力アッセイや間もなく提供予定の検査を通じて、がんの早期発見および治療ガイダンスのための非侵襲的手法を提供することで、すべての人々の健康な生活を推進し、ウェルビーイングを促進しています。これにより、特に非小細胞肺がんおよび大腸がんにおいて適切なタイミングでの介入が可能となり、患者の治療成績の改善が見込まれます。同社は、独自のデジタル増幅技術やバイオインフォマティクス(生物情報科学)を取り入れることで、がん診断の技術革新を推進しています。

その他、アマゾン・ドット・コム(一般消費財・サービス流通・小売り)を新規に組み入れました。自律型電動物流への投資と活用を進めており、eコマースのカーボン・フットプリント(製品・サービスのライフサイクル全体の温室効果ガス排出量をCO2排出量に換算したもの)を低減しています。小売売上全体に占めるeコマースの割合が高まるなか、これらの低減はますます重要になるとみられます。

一方、ズーム・コミュニケーションズ(ソフトウェア・サービス)を全売却しました。無料アカウントから有料アカウントへの誘導に苦戦していることや、ドキュメント作成ツールの提供開始遅延などから、評価スコアを引き下げました。

(日本短期債券マスターファンド(適格機関投資家向け))

日米を中心とした金融政策動向や経済指標が示唆する景気動向などを睨みながら、デュレーション(金利感応度)を調整しました。日銀の段階的な金融引き締め政策を想定し、期間を通じてデュレーションをベンチマーク対比短めで調整しました。

当ファンドは、全ての組入銘柄の選定においてESG(環境・社会・ガバナンス(企業統治))を主要な要素としており、日興アセットマネジメントが「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて定めた「ESG投信」です。

破壊的イノベーション関連企業の技術、製品・サービスやビジネスモデルが、社会課題解決の達成にどの程度寄与するかを測る「ARKインパクト・スコア」を用いて銘柄選定を行ないました。各銘柄は1～10までの10段階で評価され、当ファンドが主要投資対象とする「日興AMARKポジティブ・チェ

「ンジ・イノベーション・ファンド」は、全てスコアが7以上の銘柄で構成することを目標とし、全銘柄がスコア7以上を達成しています（2025年3月末時点）。なお、世界が抱える社会課題を捉えるにあたっては、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）を用いました。

日興アセットマネジメントのESG投資の詳細につきましては、以下のWEBサイトをご参照ください。
<https://www.nikkoam.com/sustainability>

日興アセットマネジメント アメリカズ・インクは日興アセットマネジメントのグループ会社として、同グループのステewardシップ方針に基づき、ステewardシップ責任を果たしています。日興アセットマネジメントグループ（以下、「当社グループ」）では、ESG要素の考慮について、お客様に対する受託者責任の不可欠な一部であると考えています。ESG課題に関する投資先企業とのエンゲージメント（目的を持った建設的な対話）および議決権行使は、株式運用におけるステewardシップ活動の主な手段であり、当社グループは議決権行使がお客様の利益に資するよう、細心の注意を払いました。債券運用においては、発行体とのエンゲージメントなど、他のステewardシップ手段を用いることで、積極的な投資家となることをめざしました。

当社グループのステewardシップ方針の詳細は、ホームページでご確認いただけます。
<https://www.nikkoam.com/about/stewardshipcode/policy>

当ファンドのベンチマークとの差異

(2024年4月23日～2025年4月21日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2024年4月23日～2025年4月21日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりいたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

| 項 目 | 第4期 |
|-----------|---------------------------|
| | 2024年4月23日～ 2025年4月21日 |
| 当期分配金 | — |
| (対基準価額比率) | —% |
| 当期の収益 | — |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | — |

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「日興AM ARKポジティブ・チェンジ・イノベーション・ファンド クラスP」円建投資証券を原則として高位に組み入れ、「日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）」受益証券への投資を抑制する方針です。

(日興AM ARKポジティブ・チェンジ・イノベーション・ファンド クラスP)

引き続き、主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されており、持続可能な未来に向けた課題の解決に関連し、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式（預託証券を含みます。）に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

株式の銘柄選定にあたっては、破壊的イノベーションに関連するテーマを幅広く調査し、社会課題解決への寄与という観点を加味して投資対象銘柄を選別していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）)

原則として、デュレーション戦略やイールド・カーブ（利回り曲線）戦略を機動的に変更することで、信託財産の安定した成長をめざします。国内では日銀の更なる追加利上げ期待が高まりやすい局面が想定されることから、当面はデュレーションを中立から短め程度とし、短期ゾーンの国債を中心とした運用を継続する方針です。

クレジット戦略については、信託財産の規模によっては運用ができないため、事業債などに関しては当面非保有の方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

約款変更について

2024年4月23日から2025年4月21日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当ファンドについて、運用報告書（全体版）は電磁的方法により提供する旨を定めている規定につき、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に即した記載に変更するべく、2025年4月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第50条）

<運用報告書の電子交付に関するご案内>

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正（施行：2025年4月）が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供に取り組んでまいります。

その他の変更について

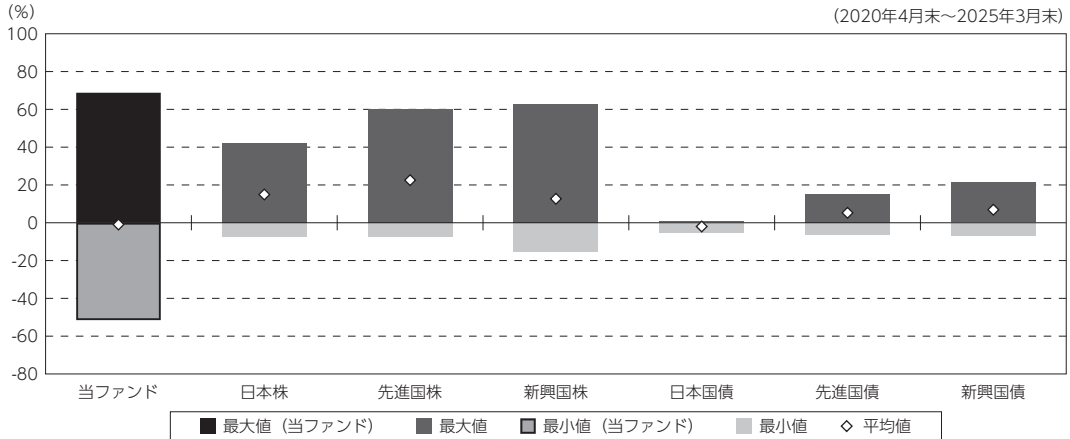
日興アセットマネジメント株式会社は、2025年9月1日よりアモヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更します。また、ホームページアドレスも「www.amova-am.com」へ変更となります。

当ファンドの概要

| | |
|--------|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／株式 |
| 信託期間 | 2021年4月26日から原則無期限です。 |
| 運用方針 | 主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されており、持続可能な未来に向けた課題の解決に関連し、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式（預託証券を含みます。）を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 |
| 主要投資対象 | 「日興AMARKポジティブ・チェンジ・イノベーション・ファンドクラスP」円建投資証券 「日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | 主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されており、持続可能な未来に向けた課題の解決に関連し、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式（預託証券を含みます。）を投資対象とする投資信託証券の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。投資信託証券の合計組入率は、高位を保つことを原則とします。各投資信託証券への投資比率は、原則として、市況環境および投資対象ファンドの収益性等を勘案して決定します。なお、資金動向等によっては、各投資信託証券への投資比率を引き下げることもあります。 |
| 分配方針 | 毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 最大値 | 68.8 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 0.6 | 15.3 | 21.5 |
| 最小値 | △ 51.5 | △ 7.1 | △ 7.4 | △ 15.2 | △ 5.5 | △ 6.1 | △ 7.0 |
| 平均値 | △ 0.9 | 14.9 | 22.5 | 12.7 | △ 2.0 | 5.3 | 6.9 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2020年4月から2025年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2022年4月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースィファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースィファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2025年4月21日現在)

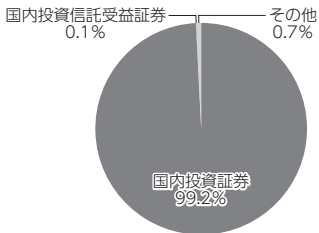
○組入上位ファンド

| 銘柄名 | 第4期末 |
|--------------------------------------|------|
| | % |
| 日興AM ARKポジティブ・チェンジ・イノベーション・ファンド クラスP | 99.2 |
| 日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け） | 0.1 |
| 組入銘柄数 | 2銘柄 |

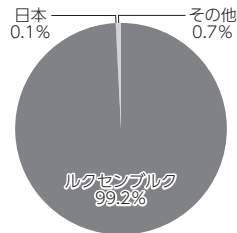
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

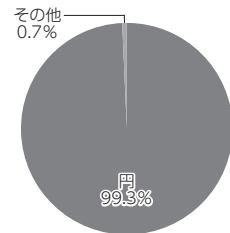
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍（邦貨建）の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

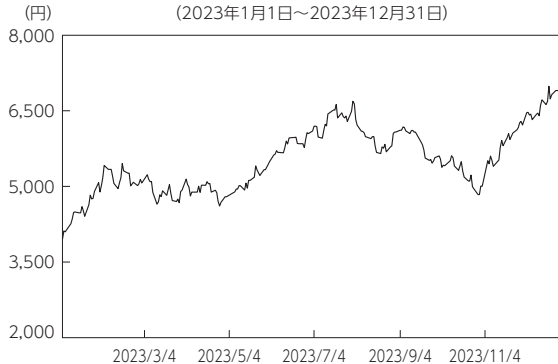
| 項目 | 第4期末 |
|------------|------------------|
| | 2025年4月21日 |
| 純資産総額 | 241,344,440,525円 |
| 受益権総口数 | 406,550,312,927口 |
| 1万口当たり基準価額 | 5,936円 |

(注) 期中における追加設定元本額は2,492,655,648円、同解約元本額は133,266,042,688円です。

組入上位ファンドの概要

日興AMARKポジティブ・チェンジ・イノベーション・ファンド クラスP

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2023年1月1日～2023年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2023年12月31日現在)

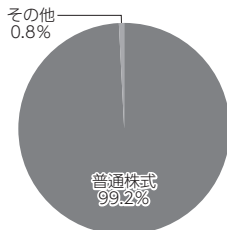
| | 銘柄名 | 業種 / 種別等 | 通貨 | 国(地域) | 比率 |
|----|------------------------------|----------|--------|-------|------|
| 1 | COINBASE GLOBAL INC -CLASS A | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 9.3% |
| 2 | BLOCK INC | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 7.6% |
| 3 | TESLA INC | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 7.2% |
| 4 | UIPATH INC - CLASS A | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 4.8% |
| 5 | ROKU INC | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 4.7% |
| 6 | ZOOM VIDEO COMMUNICATIONS-A | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 4.4% |
| 7 | TWILIO INC - A | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 4.1% |
| 8 | CRISPR THERAPEUTICS AG | 普通株式 | アメリカドル | スイス | 3.5% |
| 9 | TRIMBLE INC | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 3.1% |
| 10 | ROBINHOOD MARKETS INC - A | 普通株式 | アメリカドル | 米国 | 3.0% |
| | 組入銘柄数 | | 55銘柄 | | |

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

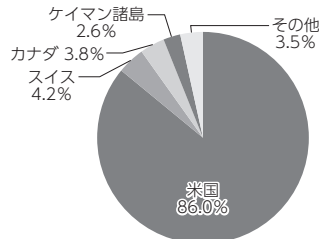
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

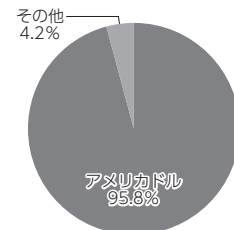
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



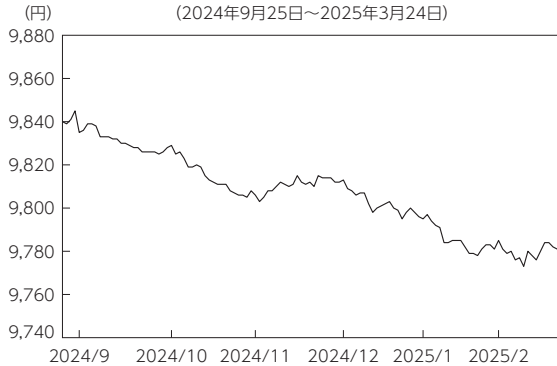
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

日本短期債券マスターファンド[®] (適格機関投資家向け)

【基準価額の推移】

(2024年9月25日～2025年3月24日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2024年9月25日～2025年3月24日)

| 項目 | 第217期～第222期 | |
|--|------------------------------|--|
| | 金額 | 比率 |
| (a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社) | 8 (6) (-) (2) | 0.082 (0.065) (-) (0.016) |
| (b) その他費用 (監査費用) (印刷費用等) | 5 (0) (5) | 0.049 (0.001) (0.048) |
| 合計 | 13 | 0.131 |

作成期間の平均基準価額は、9,810円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位ファンド】

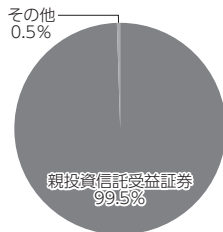
(2025年3月24日現在)

| 銘柄名 | 第222期末 |
|----------------|--------|
| 日本短期債券マスターファンド | 99.5% |
| 組入銘柄数 | 1銘柄 |

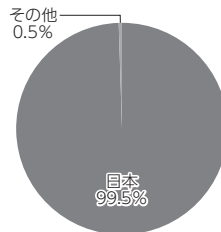
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

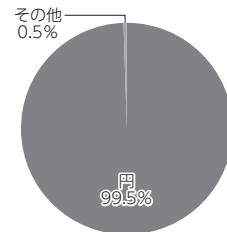
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



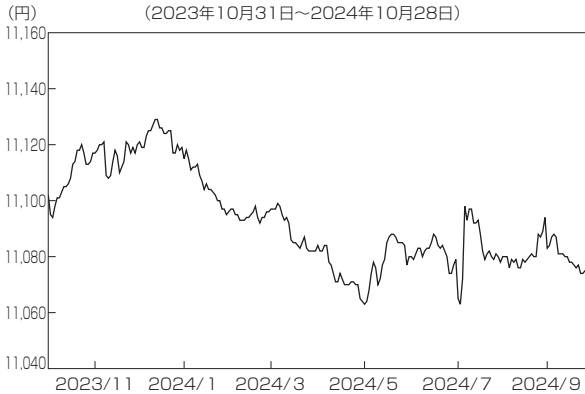
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

＜ご参考＞ 日本短期債券マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2023年10月31日～2024年10月28日)

| 項 目 | 当 期 | |
|------------------------------------|----------|------------------|
| | 金 額 | 比 率 |
| (a) そ の 他 の 費 用 (そ の 他 の 費 用) | 0 (0) | 0.000 (0.000) |
| 合 計 | 0 | 0.000 |

期中の平均基準価額は、11,091円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

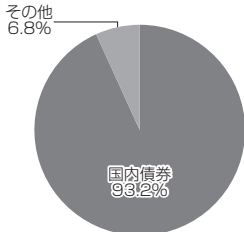
【組入上位10銘柄】

(2024年10月28日現在)

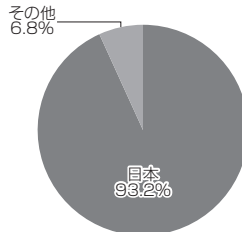
| | 銘柄名 | 業種/種別等 | 通貨 | 国 (地域) | 比率 |
|----|----------------|--------|----|--------|------|
| | | | | | % |
| 1 | 第148回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 14.8 |
| 2 | 第150回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 10.9 |
| 3 | 第151回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 10.8 |
| 4 | 第146回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 9.9 |
| 5 | 第147回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 9.9 |
| 6 | 第149回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 9.9 |
| 7 | 第153回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 9.8 |
| 8 | 第143回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 5.0 |
| 9 | 第144回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 5.0 |
| 10 | 第145回利付国債 (5年) | 国債証券 | 円 | 日本 | 5.0 |
| | 組入銘柄数 | | | 12銘柄 | |

- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
- (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
- (注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

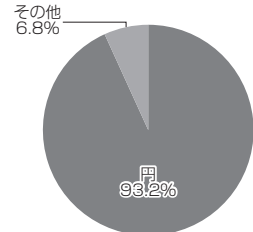
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 - (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 - (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
- ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。